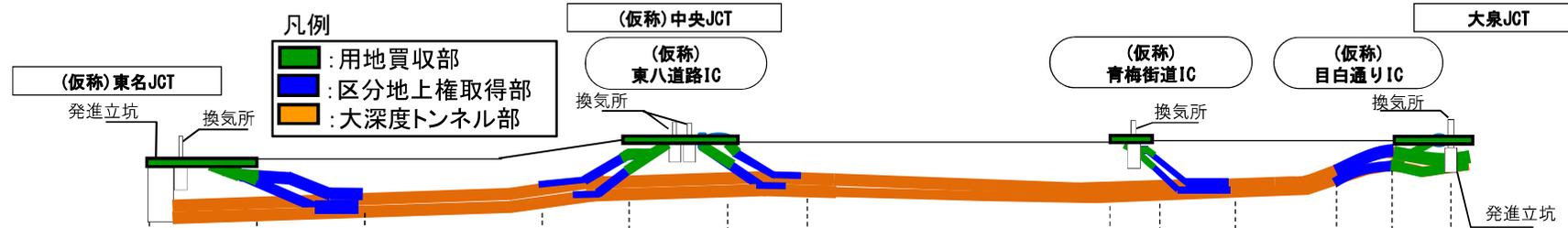


東京外環の事業実施状況について

資料 1

R2年6月末

東京外環 用地取得の状況



用地取得の 態様	東名JCT		-	中央JCT		-	青梅街道IC		-	大泉JCT	
	買収	区分 地上権		区分 地上権	買収		区分 地上権	買収		区分 地上権	

面積ベース

	東名JCT			中央JCT			青梅街道IC			大泉JCT	合計
買収	99% (+1%)	-		99% (±0%)	-		29% (+5%)	-	99% (±0%)	93% (+1%)	
区分地上権	97% (+3%)	-		95% (+2%)	-		27% (+20%)	-	100% (±0%)	84% (+6%)	
合計	98% (+1%)	-		99% (+1%)	-		28% (+12%)	-	99% (±0%)	90% (+2%)	

件数ベース

	東名JCT			中央JCT			青梅街道IC			大泉JCT	合計
買収	97% (+1%)	-		99% (±0%)	-		37% (+9%)	-	99% (+1%)	92% (+1%)	
区分地上権	90% (+7%)	-		92% (+4%)	-		24% (+13%)	-	100% (±0%)	81% (+6%)	
合計	93% (+4%)	-		96% (+2%)	-		30% (+12%)	-	99% (+1%)	87% (+3%)	

残件数

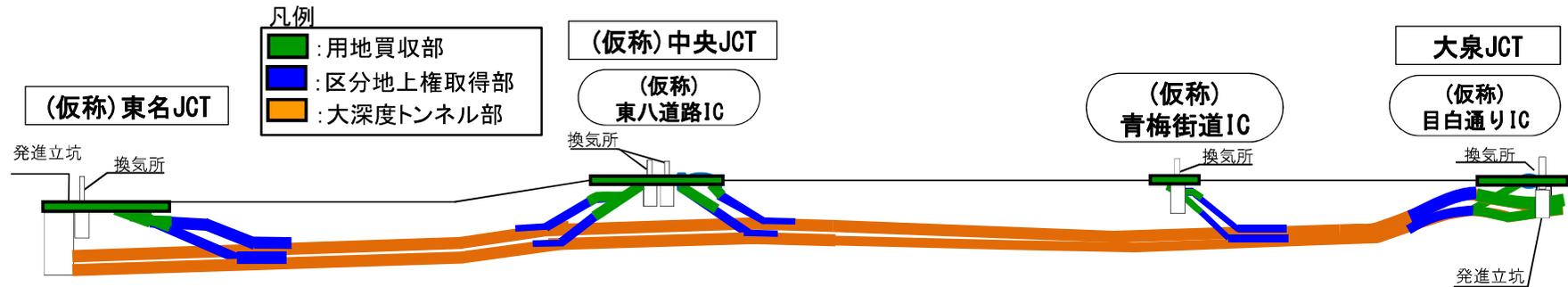
	東名JCT			中央JCT			青梅街道IC			大泉JCT	合計
買収	8 (-4)	-		2 (±0)	-		81 (-12)	-	3 (-3)	94 (-19)	
区分地上権	27 (-20)	-		26 (-16)	-		133 (-23)	-	0 (±0)	186 (-59)	
合計	35 (-24)	-		28 (-16)	-		214 (-35)	-	3 (-3)	280 (-78)	

※用地取得は、国、東京都、NEXCO東日本、NEXCO中日本が分担して実施
 ※用地買収部については平成26年度より土地収用法に基づく収用手続きを活用中
 (事業者からの裁決申請・明渡裁決申立後は東京都収用委員会において手続きを実施)

※()内の数値は、H30年11月比

東京外環 埋蔵文化財調査の状況

R2年6月末



埋蔵文化財調査対象地のうち着工可能な面積の割合

	東名JCT	中央JCT	青梅街道IC	大泉JCT	合計
進捗率	96% (±0%)	100% (±0%)	0% (±0%)	100% (±0%)	87% (±0%)

※()内の数値は、H30年11月比

※東京都との調整により調査必要範囲を事前に確定
 ※調査必要範囲について、工事着工前に区市の立ち会いのもと試掘調査(確認調査)を実施し、その結果を踏まえ、必要に応じて東京都にて本掘調査を実施

$$\text{※進捗率} = \frac{\text{調査済み面積}}{\text{調査対象面積}}$$

■工事实施状況（本線シールド）

R2年6月現在

- ・本線トンネルの東名側シールドマシン2基は平成29年2月に発進し、それぞれ約3.7km、約2.8kmのトンネル掘進完了。
- ・本線トンネルの大泉側シールドマシン2基は平成31年1月に発進し、それぞれ約0.9km、約0.5kmのトンネル掘進完了。

・東名側シールドマシン

・発進式(平成29年2月19日開催)



・施工状況(令和2年7月撮影)

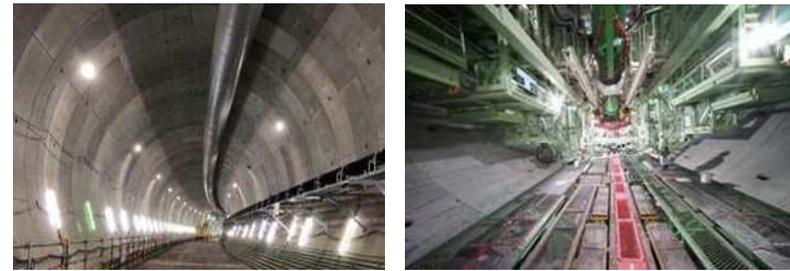


・大泉側シールドマシン

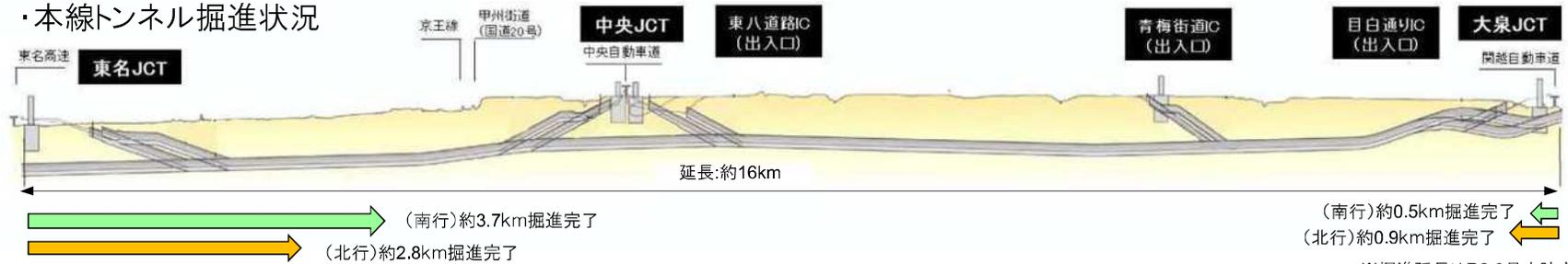
・発進式(平成31年1月26日開催)



・施工状況(令和2年7月撮影)



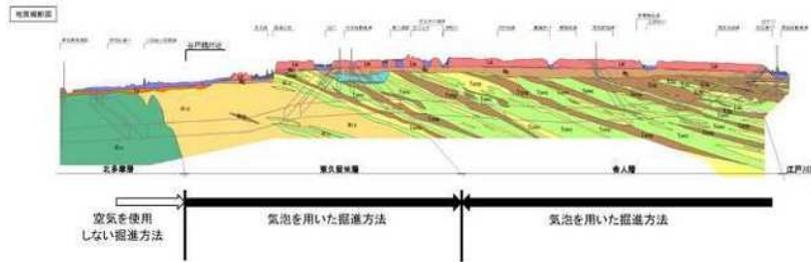
・本線トンネル掘進状況



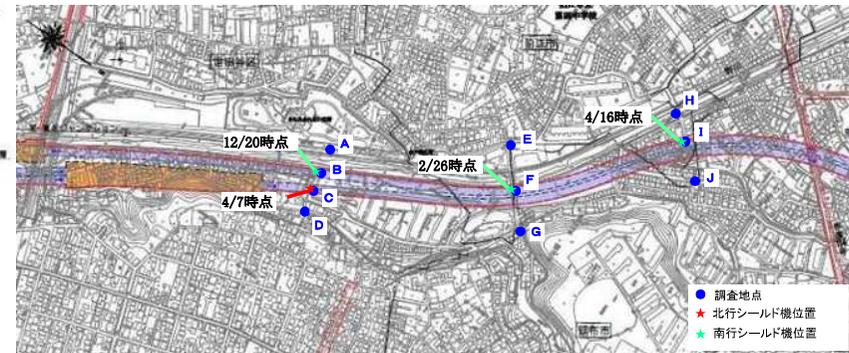
■工事实施状況（本線シールド）

- 粘性土層である北多摩層では空気を使用しない掘進方法としてきたが、谷戸橋付近以降から添加材として気泡を用いた掘進を実施。大泉側本線シールドは添加剤として気泡を用いた掘進を実施。
- シールドマシン掘進位置の地上部で確認された漏気については、水質調査や井戸・地下室での酸素濃度調査等の結果、環境基準等を満足しており、周辺環境へ影響を及ぼすものではないことを確認。
- 掘進に伴う振動は、指定建設作業に適用する勧告基準や日常生活等に適用する規制基準よりも小さい値であることを確認。引き続き、住民からの問合せに対しても適切に対応する。
- 引き続き、安心を確保するために、情報収集に努め、モニタリングを行いながら、細心の注意を払い安全に掘進を進めていく。

【シールドマシンの掘進方法】



【東名側本線シールド掘進に伴う振動調査結果】
（令和元年12月～令和2年4月測定分）



【野川での漏気状況】



【白子川での漏気状況】

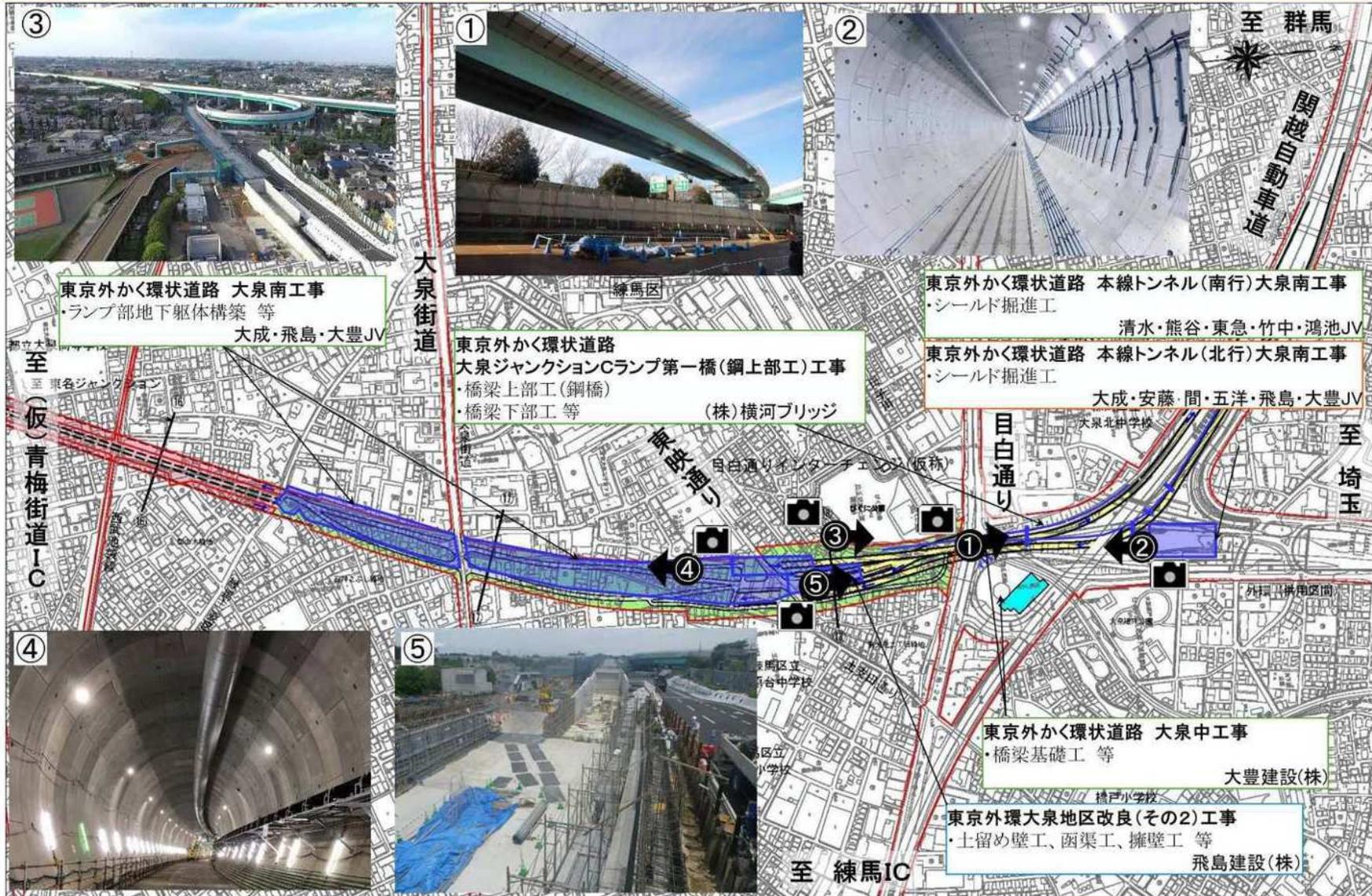


調査地点	シールド機先端からの平面距離	調査日	調査時間	振動レベルL10 (dB)	
				停止中最大	掘進中最大
A	北行から約90m	4/7(火)	14:00~22:00	35	38
	南行から約50m	12/20(金)	18:00~23:00	28	31
B	南行直上付近	12/20(金)	18:00~23:00	24	31
C	北行直上付近	4/7(火)	14:00~22:00	29	39
D	北行から約90m	4/7(火)	14:00~22:00	30	39
	南行から約85m	12/20(金)	18:00~23:00	28	33

調査地点	シールド機先端からの平面距離	調査日	調査時間	振動レベルL10 (dB)	
				停止中最大	掘進中最大
E	南行から約100m			28	40
F	南行直上付近	2/28(水)	15:00~23:00	25	45
G	南行から約85m			27	49

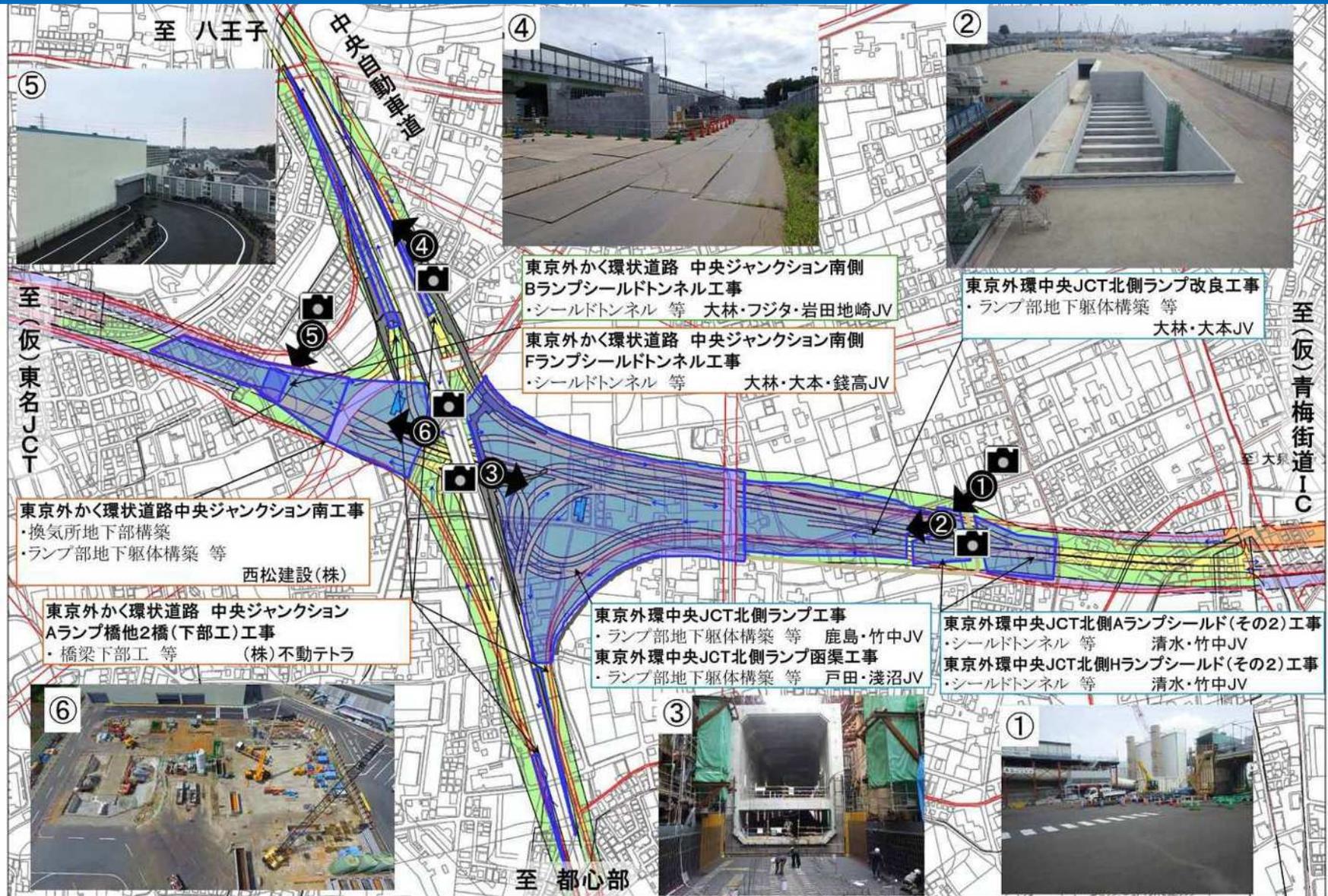
調査地点	シールド機先端からの平面距離	調査日	調査時間	振動レベルL10 (dB)	
				停止中最大	掘進中最大
H	南行から約55m			37	45
I	南行直上付近	4/18(木)	13:00~23:00	25	42
J	南行から約85m			22	38

■工事実施状況（大泉JCT）



用地取得の形態 用地買収部 区分地上権取得部 大深度地下使用部 工事実施箇所

■工事実施状況（中央JCT）



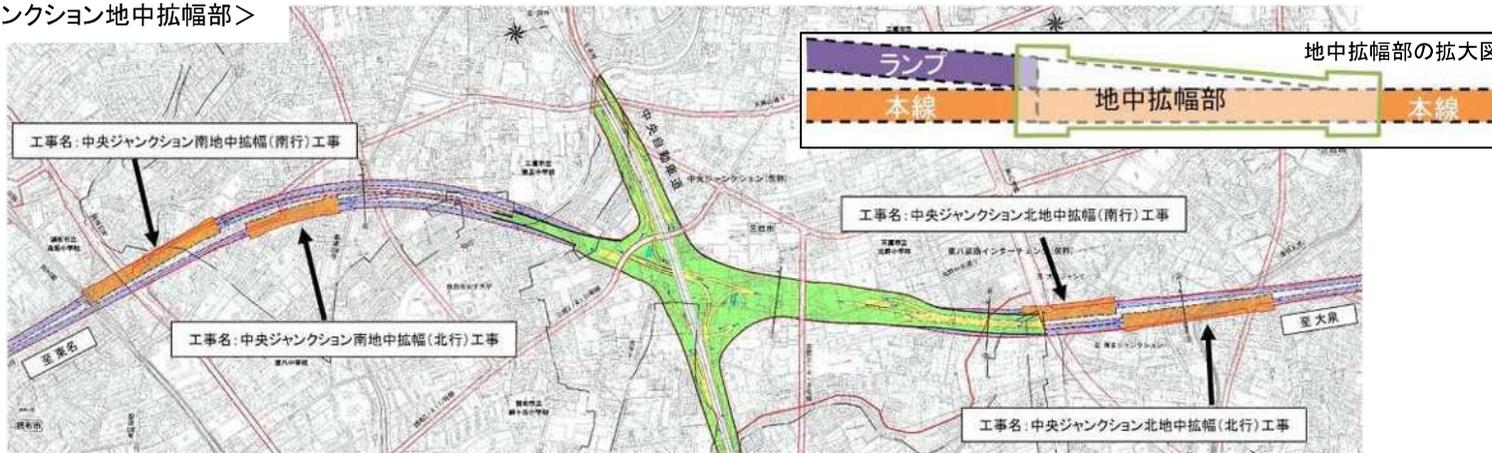
用地取得の形態
用地買収部
区分地上権取得部
大深度地下使用部
工事実施箇所

■工事実施状況（東名JCT）

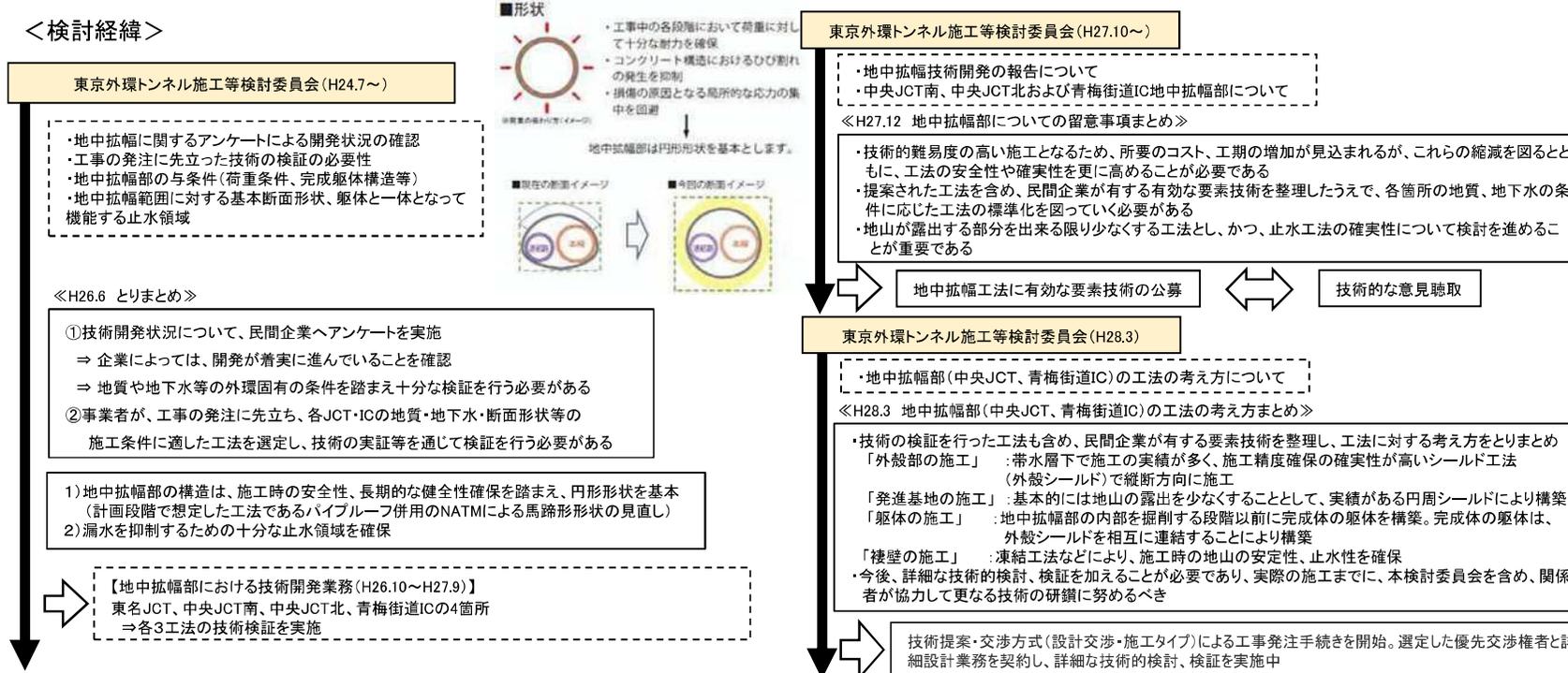


中央JCT地中拡幅の検討状況

<中央ジャンクション地中拡幅部>

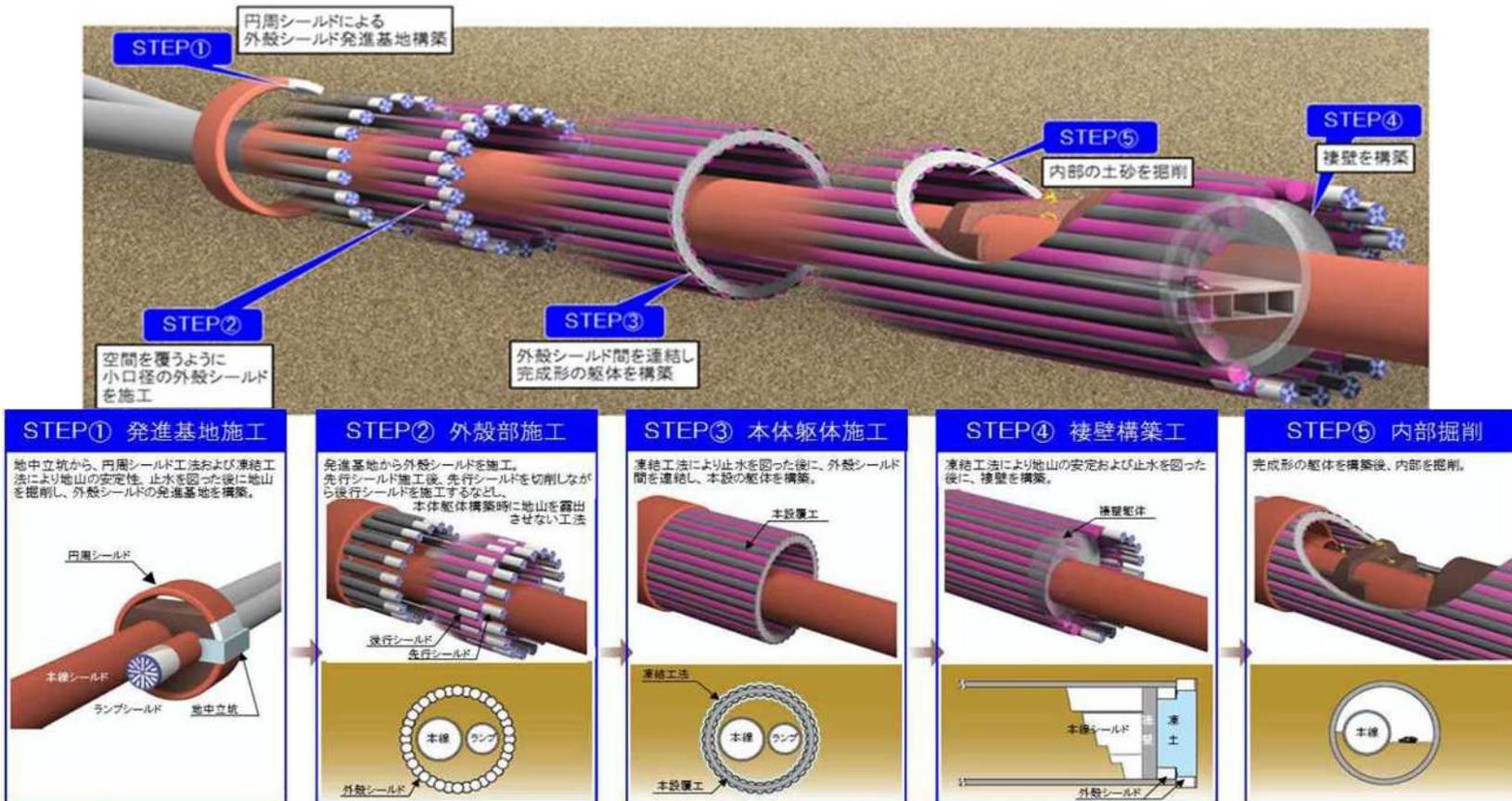


<検討経緯>



中央JCT地中拡幅の検討状況

<中央JCT地中拡幅部工法>



<トンネル委員会(令和2年7月17日)での結果概要(議事抜粋)>

- 中央JCT地中拡幅部の工事の設計方針及び概略の構造について報告があり、平成28年3月24日に示した「地中拡幅部(中央JCT、青梅街道IC)の工法の考え方とめ」の発進基地、外殻部、躯体、棲壁の考え方に基づいていることを確認した。
- 市街化された地域の大深度地下部において、地下水を有する地盤内に非開削で構築する必要がある中央JCT地中拡幅部は、世界でも類を見ない規模の、技術的困難さを伴う工事である。東名JCT部と比較して地山の透水性が高く、地山の自立性が低い中央JCT部の地質条件を踏まえると、施工時の止水性および地山安定性の確保のため、相当のコスト・工期の増加が見込まれるが、より安全性が高く合理的な工法である凍結工法や小口径シールドを用いた工法が必要であることを確認した。
- 近年の中央JCT部周辺における深層地下水位上昇傾向は、地下水の揚水規制が要因と考えられ、今後も継続することが想定されることから、将来の深層地下水位上昇を見込んだ施工検討が必要であり、設計上それが考慮されていることを確認した。
- 断面の合理化について検討しているところであり、引き続き、より確実な安全性や健全性の確保、コスト・工期の縮減について検討を行いながら、詳細な設計を進めていくことを確認した。